

高齢者施設 服薬管理支援事業の報告

ブルークロス調剤薬局 水野一真

本日お話しする内容

- ①高齢者施設の服薬管理支援事業について
- ②服薬管理等支援事業フロー
- ③実施内容

本日お話しする内容

①高齢者施設の服薬管理支援事業について

②服薬管理等支援事業フロー

③実施内容

高齢者施設の服薬管理支援事業について

【事業の概要】

- 高知県と高知県薬剤師会は、多剤服薬傾向にある高齢者を中心に医療DXの活用や**多職種連携による服薬支援体制の強化**を図っている。
- 高齢者施設を対象に入所者の服薬管理や課題等についてアンケート調査を実施。
- 健康づくりや服薬管理の重要性について、薬剤師が勉強会や健康ゲーム等を通じて解説し、施設入所者や職員等のスキル向上を図る。

高齢者施設の服薬管理支援事業について

【事業における課題】

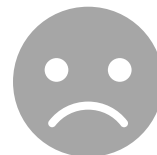
【高齢者が抱える課題】

- ・ 複数の疾患を抱えており多剤傾向
- ・ 複数の薬局で薬の受け取り
- ・ 理解度の低下
- ・ 残薬や飲み間違い
- ・ 医療DXへの対応が難しい



【施設職員が抱える課題】

- ・ 服薬管理による業務量の増加
- ・ 入所者の拒薬や飲み忘れ
- ・ 入所者への誤配
- ・ 医薬品に関する知識不足



高齢者施設の服薬管理支援事業について

【事業の目的と取組】

高齢者施設に地域の薬局薬剤師が介入することにより、
高齢者の適正な薬物治療を確保する。

- 施設入所者の多剤服用による有害事象の防止
- 施設職員が抱える課題の解決
- 入所者及び施設職員のスキル向上
- オンライン体制の整備



高齢者施設の服薬管理支援事業について

【事業での役割】



薬局薬剤師

- ・課題解決のための提案
- ・服薬支援や健康づくり・服薬管理に係るアドバイス
- ・実績報告書の提出



県および県薬剤師会

- ・事業計画の立案
- ・事業アンケートの実施及び事業評価
- ・高齢者施設・薬局の連絡窓口



高齢者施設

- ・施設における課題の抽出
- ・事業アンケートへの協力
- ・医薬品に関する知識の習得
- ・通信機器等や支援者の確保

本日お話しする内容

①高齢者施設の服薬管理支援事業について

②服薬管理等支援事業フロー

③実施内容

服薬管理等支援事業フロー

課題等の抽出

- ・ アンケートにより
高齢者施設における
服薬管理等の課題を抽出



施設訪問

- ・ 課題等の聞き取り
- ・ 課題解決のための提案
- ・ 服薬支援や服薬管理に関するアドバイス
- ・ ポリファーマシー調査



提案内容の実施

- ・ 施設側が解決策を実施
- ・ 新たな課題の抽出



評価

- ・ 再び薬剤師が施設を訪問
- ・ 課題等は解決に至ったか確認
- ・ 新たな課題の共有・提案



本日お話しする内容

①高齢者施設の服薬管理支援事業について

②服薬管理等支援事業フロー

③実施内容

実施内容

令和7年度までの取組①

【訪問日】

- ①令和6年11月28日
- ②令和7年1月15日

【訪問施設】

- ・小規模多機能型居宅介護施設A



実施内容

【訪問時の課題と解決案】

服薬の課題

服薬困難・拒薬
特殊な用法薬の服薬管理が困難
スタッフ間での引継ぎ忘れ等
ヒューマンエラー



解決案

処方変更の検討：
代替薬、剤形、用法 等

管理の課題

薬局ごとの調剤方法の違いに
苦勞



解決案

要望確認し、薬局が行える
ことについて情報共有

業務量の課題

看護師業務以外の
業務に負われている



解決案

専門職にしかできない業務に
重点を置けるよう支援可能

実施内容

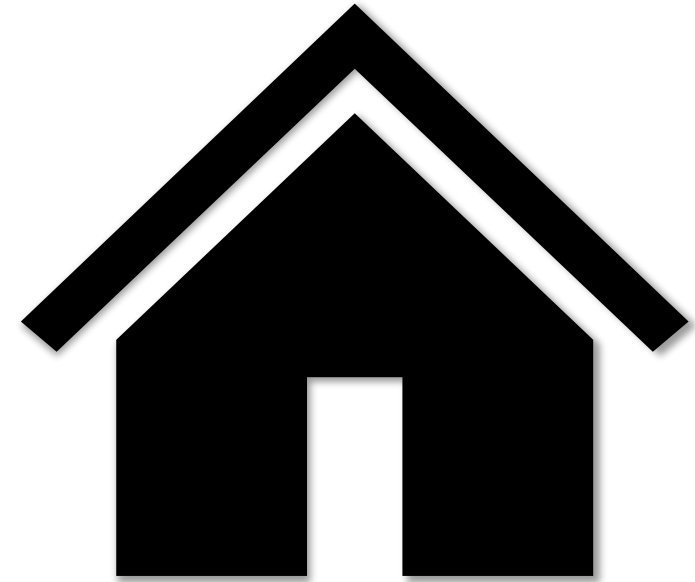
令和7年度までの取組②

【訪問日】

①令和8年3月12日

【訪問施設】

- ・小規模多機能型居宅介護施設B



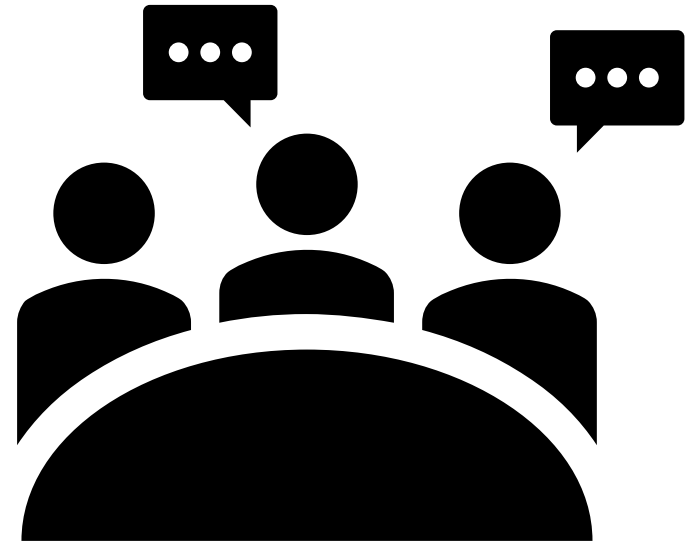
実施内容

【初回訪問】

①事前のアンケートで回答があった課題等について
詳しく聞き取り

②課題解決策の提案

③次回の実施内容を確認



実施内容

【訪問時の課題と解決案①】



○服薬困難・拒薬

- ・味が苦手なのか飲み込みに苦労する人がいる。
- ・錠剤は飲みにくいいため、施設判断で粉砕することがある。
- ・粉砕可能な薬か判断が難しい。
- ・粉砕時に目的以外の薬も粉砕してしまう。



○処方変更、剤形変更を検討💡

- ・粉砕希望があれば、粉砕可能な薬は粉砕調剤へ変更。
- ・散薬や粉砕可能な代替薬への変更を検討。
- ・徐放性製剤や粉砕後に苦み・刺激性の出る製剤がある。

実施内容

【訪問時の課題と解決案②】



○下剤の適切な服用時点が不明

- ・ 頓服を飲ませるにあたって、より良い時間があれば知りたい。
- ・ 下剤は空腹時服用が適切と以前、看護師から話を聞いた。
- ・ 日中に便が出るようにはしたい。
- ・ 医師によっては食前服用もあり、服薬管理が難しい。



○薬識の説明共有、施設職員のスキル向上 💡

- ・ 効果発現時間を考慮した服用時点の提案。
- ・ 食前服用が難しい場合は、薬剤や用法変更を検討。

実施内容

【訪問時の課題と解決案③】



○入眠困難な施設入所者への対応

- ・眠剤服用も入眠困難の方には医師へ強い薬を頼むことは可能？
- ・夜中は職員1人で見ているから負担がかかる。
- ・昼夜逆転している人もいる。



○情報共有・施設職員の負担軽減へ

- ・眠剤によっては、転倒・骨折リスクは上がるため、医師によっては強い眠剤は処方しにくい可能性がある。
- ・寝つきが悪い原因を模索：入眠時間は妥当かといった確認等。

実施内容

【次回の実施内容を確認】

○ポリファーマシーによる有害事象への取組



データ収集



調査分析



個別介入

「おくすり問診票」を活用し、
多剤併用による有害事象が疑われる
入所者をスクリーニング。

調査方法：**6剤以上**の薬を服用
している入所者をピックアップ。
→高知県協定締結大学との
共同研究として分析を実施。

薬剤師が薬学的評価を行い、
必要な改善策を模索。

実施内容

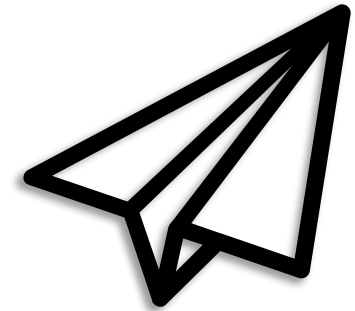
【次回以降の実施内容】

- 「おくすり問診票」を用いたポリファーマシー調査の分析結果を元に、個別ケースへの介入を実施。
- 訪問時の内容を踏まえた課題の共有と解決策の提案を行う。



今後の展望

- 多剤服薬傾向のある患者に対して、個別の服薬管理支援計画を立案
- 実際の服薬状況を確認
 - ・服薬に関する課題の把握
 - ・課題の原因を探索
 - ・可能であれば、患者本人への聞き取りを実施
- 高知EHR（高知あんしんネット）の活用



本事業を通して感じたこと（まとめ）

- 服薬に伴う課題は、複数施設で共通項がみられる。
- 情報共有する場があることで、
双方の課題を知り、改善していくことが可能。
- 薬局・薬剤師ができることを知ってもらおう。

